

事務事業名		農作業体験交流活動事業及び体験学習補助金交付事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	05: 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間		予算科目				
	施策名	20: 産地化をめざした農林業の振興					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	02: 農業の担い手の確保					01	06	01	03	14
根拠法令											
所属	部課名	農林水産部 農林課			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成14 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	農政係	電話	27-3111							
			内線	344							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・農地を持たない市民あるいは小学生を対象に、農業の体験や学習をしてもらう。 ・農作業体験交流活動は、都市住民を対象として米づくりを中心に農作業を体験させる事業で、市内の農業生産組織に委託する。委託料は300千円。委託料は、種苗代、肥料代、薬剤代、機械借上料、水田管理費、人件費等に支出されている。 ・農作業体験学習補助金交付事業は、市内の小学校で行う農業学習に対して補助金を交付する。補助金額は1校あたり130千円。補助金は、種苗代、資材代、講師謝金等に使われている。					全体計画(期間限定複数年度のみ) 総投入量(千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0						

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
・農地を持たない市民を中心に参加募集を行い、農家の作業指導のもと、米づくりを体験を実施した。 ・市内2つの小学校(猪川小、日頃市小)で行う農業体験学習事業に補助金を交付した。		ア	農作業体験交流活動実施日数
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	農作業体験学習実施校数
・農家に作業の指導をしてもらいながら米づくりを体験を実施する。 ・市内2つの小学校で行う農業体験学習事業に補助金を交付する。		ウ	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
・市民 ・市内の小学生		名称	
		単位	
		カ	市内の住民数
		キ	市内の小学校児童数
		ク	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
住民や小学生等に農作業体験交流活動や農業についての学習をしてもらい、農業についての関心や理解を深めてもらう。		名称	
		単位	
		サ	農作業体験交流活動参加人数
		シ	農作業体験学習参加児童数
		ス	
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
農地が担い手に集約される。			

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(目標)	22年度(目標)
投入量	事業費	単位						
		千円						
投入量	事業費	国庫支出金						
		都道府県支出金		280		300	300	300
		地方債						
		その他	600					
		一般財源		280	560	300	300	300
	事業費計(A)		600	560	560	600	600	600
	人件費	正規職員従事人数	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	80	80	80	80	80	80
		人件費計(B)	320	320	320	320	320	320
	トータルコスト(A)+(B)		920	880	880	920	920	920
活動指標	ア	日	4	5	4	5	4	4
		校	2	2	2	2	2	2
		ウ						
対象指標	カ	人	43379	42847	42245	41597	42000	42000
		人	2579	2547	2386	2350	2300	2250
		ク						
成果指標	サ	人	45	27	47	62	40	40
		人	121	140	130	445	130	130
		ス						

事務事業ID	0517	事務事業名	農作業体験交流活動事業及び体験学習補助金交付事業
--------	------	-------	--------------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 平成14年度から、中山間地域等の振興のため、農業を経験したことのない市民に農業を理解してもらう目的で始まった。	
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 農村と都市住民の交流を目的としたグリーン・ツーリズムの推進等により、全国各地で農業体験が行われている。 食品の偽装事件等を契機に、食の安全・安心にかかる国民の関心が深まり、食育の一環として農作業体験の重要性が見直されている。	
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 事業を委託している農業者からは、農業を体験するだけでなく、参加者との交流を深め事業後もつながりを持ちたい、と言われている。 一般住民の参加者からは、子どもにいい体験がさせられてすばらしい事業なので、今後も続けて欲しいと言われている。 事業を実施している小学校から、補助金額の増額と事業継続を要望されている。	

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 農業や農村に対する理解が深まり、関心を持ってもらうことで、将来的に農業の担い手になる可能性が生まれる。国産の農産物に対する信頼度があがる。
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 市民や小学生に食や農業について理解をしてもらうことで、地産地消が進んだり、農業の担い手の確保につながるから、行政関与は妥当である。
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 農業を経験したことのない市民や小学生に、農作業を体験させることにより、農業への理解を深めさせる事業であり、対象、意図とも妥当である。
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] 農作業体験交流事業は、現在の事業費では、受け入れられる人数には限界があることから、予算を増やして数箇所を実施することにより、市民の参加者が増加する。 農作業体験学習事業は、予算を増やして実施校を増やすことにより、多くの児童に体験させることができる。
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 農作業を体験してみたいという人が、農業にふれる機会をなくすことになる。
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 他に類似する事業はなし。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 事業費が、種苗代、資材代等必要最低限の経費であり、削減の余地がない。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 最低限であり、削減余地はない。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 一般市民に対しては市の広報等を使って募集しているので、参加機会は均等に与えている。

事務事業ID	0517	事務事業名	農作業体験交流活動事業及び体験学習補助金交付事業
--------	------	-------	--------------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 参加した市民には、農地の果たしている役割と、農業に対する理解が深まった。 事業費の関係で、主に水稻栽培の体験となっているが、事業費が増えれば野菜等の畑作物の作業も体験させたい。																					
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>			目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 当面は、現状の事業費で対応することで成果を維持していく。 農作業体験交流事業及び農作業体験学習事業とも、予算増により事業量が増加し、成果の向上が期待できる。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			●	維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上			●																			
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 一般市民を対象とした農作業体験交流事業については、事業費を増やして実施箇所を増やすことで参加者も増えるが、市費の負担を軽減させるために、参加者から参加料をもらうことも検討する必要がある。																							

		(職 名)	原則として施策の主管課長	(氏 名)
4 事務事業の2次評価結果	2次評価者		農林課長	

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合																					
記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																					
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由 左記 ~ とも適切である。																				
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 現状どおり、継続して事業を実施する。								
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																			
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																			
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																			
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																			
(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持		●	×	低下		×	×
			コスト																		
		削減	維持	増加																	
成果	向上			○																	
	維持		●	×																	
	低下		×	×																	

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項